

1 研究主題の設定理由

予測困難な未来を生きる子どもたちには、「何を知っているか」よりも「どのように問題を解決できるか」という力が求められています。学校教育においても、実社会で生きて働く力としての資質や能力を育成することが必要不可欠です。また、日本が提唱する未来社会のコンセプトである「**Society5.0**」では、社会課題の解決と経済発展を両立する超スマート社会の実現が示されており、その実現のためには、各教科において **ICT** を効果的に活用した授業の実施が欠かせません。さらに、**SDGs** やイノベーションのように、社会構造の急激な変化が進行する中、世界中で多様な技術や思考が広がっています。こうした変化を前向きに受け止め、人間らしい感性を活かしながら、社会や人生、生活をより豊かにしていく姿勢が求められています。

一方、学校現場では、発達障害や不登校の児童の増加に伴い、学力差や家庭環境の違いが明らかになってきました。こうした実態を受け、児童一人ひとりに応じた学習支援をこれまで以上に充実させていく必要があります。中央教育審議会がまとめた『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、急激に変化する時代を生き抜くために育むべき資質や能力として、児童が自分自身の良さや可能性を認識するとともに、他者をかけがえのない存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められているとされています。

こうした資質や能力を育成するためには、学習指導要領で示された三つの学力である「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「学びに向かう力や人間性など」の習得を目指し、主体的で対話的な深い学びの実現が不可欠です。

これまでのように、教師が授業中に最も思考し、主導する授業のあり方ではなく、児童一人ひとりの特性や学習状況に応じた指導と支援を行い、児童が主体的に授業に参画できるような授業改善が求められています。そのためには、児童が自ら学習を進められるような学習環境を整備し、児童同士が互いの考えを出し合い、高め合える協働の場を設定することが、これまで以上に重要となります。

2 研究の方向性

昨年度、本校では「主体的・協働的に学び合う子の育成～子ども主体の授業づくりを通して～」を研究の主題および副題に掲げ、児童の資質や能力の育成を目的として研究を進めました。研究は国語科を中心に進め、第2学期以降は単元の一部を児童に委ねる「複線型国語科授業」に取り組むことで、研究の主題の実現を図りました。

その成果として、児童が自ら学び方を選択し、問いを持って行動し、課題の解決に向かって学習に取り組む姿が見られました。このような姿の背景には、児童が自分のペースで学習を進められる環境の整備と、**ICT** 機器の活用によって他者との交流や学び合いが促進されたことがあります。これらの成果は、学習環境の充実と、教員が「子ども主体の授業づくり」に重点を置いた意識改革の結果であると考えられます。

一方で、いくつかの課題も浮き彫りになりました。一つ目の課題は、学習の主導権を児童に委ねたことで、一人ひとりの学習状況に差が生まれ、資質や能力の育成に向けた個別支援のあり方が問われるようになった点です。もう一つの課題は、主体的に学び、協働的に学び合うためには、児童全員が共通の学習スタイルや学びの土台を持っている必要があるという点です。

この学びの土台には、学級経営や人間関係づくりといった生徒指導の視点を取り入れることが重要であり、引き続き生徒指導と連携しながら支援を進めていく必要があります。

本校ではこれまで四年間にわたり、国語科を軸として児童が主体的・対話的・協働的に学び合う姿の育成を目指して取り組んできました。令和六年度に実施した「石川県国語教育研究大会 白山・野々市大会」での授業公開を一つの節目とし、今後は国語科以外の教科にも研究対象を広げていきたいと考えています。各教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせることにより、さらに資質や能力の育成を図っていくことを目指します。

そのためには、教職員一人ひとりの専門性や強みを生かし、ベテランと若手の教員が協働して授業改善に取り組むことが重要です。このような取り組みを通じて、授業力の向上を図り、最終的には児童の資質や能力のさらなる育成につなげていきたいと考えています

3 研究主題及び副題

研究主題

主体的・協働的に学び合う子の育成 ～資質・能力の育成に向けた子供主体の授業づくりを通して～

4 研究用語の定義

- 「主体的」・・・・・・・・ 個の力。教材と向き合い、粘り強く「問い」から「解決」の往還すること。また、自己の学習ペースを考えて調整すること。
- 「協働的」・・・・・・・・ 集団の力。児童と児童の「伝え合い」、「教え合い」、「コミュニケーション」「情報交換」を通して学び合うこと。
- 「子供主体の授業」・・ 児童が自ら問いを見出し、自分の選択した方法や手段で、解決していく授業のこと。
- 「学習環境」・・・・・・・・ 既習の学び、関連図書の位置付け。ノートやワークシートの工夫、ＩＣＴの活用など、児童が自ら問いを見出し、解決する手段や方法を想定した学習環境のこと。

5 学年研究を軸とした校内研究の推進

本校の研究主題に迫るためには、学年団の結束と協力が必要になる。それは、学年の児童の実態に応じた研究への手立てや指導の工夫が必要になってくるからである。教師個々の経験や指導方法だけでなく、学年団として多面的・多角的な視点で教材を研究し、目の前の児童に合ったオーダーメイド的な指導が必要である。さらに、柔軟かつ行動力がある若手教員と経験豊富であり、熟練の技をもつベテラン教員とが融合することで、校内研究のさらなる推進を図ることができる。

加えて、教材研究の際には、一部の教師が単独で計画し実施するのではなく、確かな資質・能力の育成を図るために、学年研究の時間を活用して単元構想を共有できるようにする。ＩＣＴ活用に関する情報を交換し、学年全体で実践を積み上げるように協力していく。

学校全体	学年	個人
全体研究会（年５回） 全体研究授業（年３回）	学年研究会（隔週・火曜日） ・朝学習の内容の確認 ・授業改善の振り返り ・教材研究や教具の準備 ・ＩＣＴの情報交換 等	研究授業（一人１回） 各種研修会 若プロ研修会 等

6 研究の重点

校内研究の「主体的・協働的に学び合う子の育成」に迫るために、昨年度から継続して２つの重点「主体的に学ぶための工夫」及び「協働的に学び合うための工夫」を設定する。主体的に学ぶために自己決定させたり、協働的に学び合わせたりするための学習環境の充実だけでなく、資質・能力の育成につながる手立てを工夫できるようにする。児童一人ひとりの学びを見取るために、抽出児の設定や具体的な児童の姿や記述などをもとに、指導と評価の一体化についても力を入れていく。また、話し方・聞き方といった伝え合うためのスキルや、発達支持的生徒指導の視点を意識した学級経営など、協働的に学び合う集団づくりを大切にしていきたい。

(1) 主体的に学ぶための工夫

児童が単元を通して、教材と向き合い、教材から問いを見出し、解決するための手立てを講じることで主体的に学ぶ児童を育成する。児童に付けたい資質・能力を明確にして、単元のねらいに迫れるように持続的な見通しもつことで、児童が単元を通して主体的に学ぶことができる。児童が主体的に学んでいくために、教科の特性に合わせた見方・考え方を働かせることや、確かな児童理解のもと指導の個別化を充実していくことが大切になってくる。また、昨年度の研究の成果をいかして、複線型授業づくりにも取り組んでいく。


(2) 協働的に学び合うための工夫

教師が児童に指示する交流ではなく、自らの必要感を感じたタイミングや時間で交流することで、自立した学習者の素地が育まれる。児童が個人で考える、複数で考える場や時を自己決定し、協働的に自己の問いを解決させていきたい。そのために、教科の特性に合わせた見方・考え方を働かせて協働する場面を設定し、協働的に学び合うことで学びを深められるようにする。視点や立場を明確にした必要感のある学び合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。また、協働的に学び合えるように、効果的なICT活用も合わせて進めていきたい。

(3) 全体研究会の設定

校内研究を計画的に推進するために、年度初めや年度末、学期の節目等に全体研究会を設定し、研究の成果と課題を短スパンで検証していく。以下のような流れで研究を推進していく。

4 月	全体研究会Ⅰ（研究の概要） 児童の実態の把握（学習規律の徹底、学力の把握等） 蕪城授業デザインの共通理解	
5 月	全体研究会Ⅱ（提案授業・指導案の確認）	
6 月～7 月	各学年の研究授業の実施 （事前研及び事後研にて、検証・分析）	
8 月	全体研究会Ⅲ（1 学期の成果と課題・2 学期からの方向性）	
9 月～12 月	各学年の研究授業の実施 （事前研及び事後研にて、検証・分析）	
1 月	全体研究会Ⅳ（今年度の成果と課題） 研究紀要の構想	
2 月	全体研究会Ⅴ（次年度の学校研究の方向性） 研究紀要の作成	
3 月	研究紀要の完成	



7 研究構想図

学校教育目標

自ら学び、心豊かで、たくましい児童の育成
～みんなが元気、みんなで前進～

白山市 指導の重点

- ・確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成
- ・地域に根ざした、特色ある学校の創造
- ・安全・安心な教育環境の整備

いしかわ学びの指針12か条プラス

- ・活用力を高める授業づくり
- ・学力・学習を支える基盤づくり
- ・指導改善を進める体制づくり

めざす児童像（教師の願い）

- ① 「自ら考え、自ら学ぶ子」
考え伝え、進んで学び合う子
- ② 「やさしく思いやりのある子」
規律正しく、相手の気持ちを考え、思いやりのある子
- ③ 「たくましい子」
心身が健康な子

【カリ・マネの柱】協働的問題解決力

主体的・協働的に学び合う子の育成

～資質・能力の育成に向けた子供主体の授業づくりを通して～

主体的に学ぶ工夫

- ・持続的な見通し
- ・見方・考え方を働かせる工夫
- ・指導の個別化の充実
- ・複線型の単元デザイン

協働的に学び合う工夫

- ・見方・考え方を働かせる
協働場面
- ・必要感のある協働場面

児童の見取り

効果的な ICT 活

校内OJT
若プロ

授業力向上

生徒指導との連携

生徒指導の4つの視点

家庭学習の充実

家庭との連携

確かな児童理解にもとづく学級経営